(昭和57年11月 日本造船学会秋季講演会において講演)

Al 合金 A 5083-0 材突合せ継手のブローホール 許容欠陥率と JIS 規格との対応について

正員	野	崎	甚	蔵*	正員	阪	井	大	輔**
正員	矢	島		浩***	正員	安	藤		清***
	ञ्चर	田	降	明***					

Allowable Blow Holes for A 5083-0 Aluminum Butt Welded Joints and its Correlation with JIS Code

> by Jinzoo Nozaki, *Member* Daisuke Hiroshi Yajima, *Member* Kiyoshi Takaaki Hirata

Daisuke Sakai, Member Kiyoshi Andoo, Member

Summary

Weld defects such like blow holes, porosities, etc. are not likely to become high stress raisers compared with planar defects like incomplete fusion. But, if their size and number are very large, fatigue strength becomes lower. Radiographic test has often been used to assure the integrity of welded joints. However, grade of defects classified by JIS Code does not have sufficient correlation with actual fracture strength.

Then, both radiographic tests and fatigue tests were carried out for A 5083-0 aluminum butt welded joints with porosities. The correlation between JIS Code and defect rate in X-ray photograph, and the correlation between defect rate in X-ray photograph and defect-area rate in fracture surface were made clearer. In addition, allowable defect-area rates in fracture surface and their corresponding JIS grade of defects were determined for respective surface treatment of butt welded joints.

1まえがき

本報では、Al 合金(A 5083-0) 製独立型 球形 タンク 方式 LNG 運搬船の球殻溶接継手の健全性に着目し、特 にブローホールを有する Al 合金 A 5083-0 材の突合せ 溶接継手高サイクル疲労強度について報告する。

代表的な溶接欠陥として問題となるのは,溶込み不良 などの平面状欠陥ならびにブローホールなどの球状欠陥 である。欠陥形状の特異性から欠陥検査には,別報¹⁾に 述べるように前者に対して超音波探傷試験(UT)を, 後者に対しては放射線透過試験(RT)が用いられてい る。前者は絶対に許されるべきものではないが,後者は 前者に比べると応力集中は小さく問題となりにくい。 かし,その欠陥の大きさが大きくなったり,その数が多 くなると,疲労強度が著しく低下することはよく知られ

- ** 三菱重工業(株)長崎造船所
- *** 三菱重工業(株)長崎研究所

ている^{2)~13)}。JIS 規格¹⁴⁾では,欠陥点数によってブロー ホールを等級分類しているが,実際の破壊現象との対応 が必ずしも明確ではない^{8)~10)}。また,従来の多くの研究 では,主に余盛なし(flushed)の欠陥継手の疲労強度係 数と欠陥率との関係が求められており,欠陥の影響がや やもすると厳しく評価されている傾向がある。実用上 は,余盛付きの欠陥継手の疲労強度評価が重要であるが, このような研究は極めて数が少なく^{12),13)},余盛あり(as welded)もしくは dressed の欠陥継手の疲労強度係数 と欠陥率の関係は十分に把握できているとはいい難い。

そこで、ブローホールを有する Al 合金 A 5083-0 材 の突合せ溶接継手試験片 (as welded ならびに dressed) を製作し、X線検査ならびに疲労試験を実施し、JIS 欠 陥等級とX線欠陥率との関係およびX線欠陥率と局部的 破面欠陥率との関係を検討した。さらに、突合せ継手の 仕上げ方法 (as welded, dressed, flushed) によって ブローホールに対する感受性が異なることに着目し、各 種仕上げ方法に対する許容欠陥率ならびにそれらの JIS

^{*} 三菱重工業(株)船舶·鉄構事業本部

日本造船学会論文集 第152号

Table 1 Classification of defects in aluminum welded joints (JIS Z 3105-1977)

	Evaluation Points Thickness	S	3	4	5 5 6	7	8	9 5	11 5	15 \$	22 5	25 S	29 \$	43 \$	50 S	57 S	Test Area
	t < 5	1		2	6	l		10	14	21	24	28	42	49	56	L	(70711×1070)
Grade	5 ≦ t < 10	1			 · .	2	L			L 3				1			10x10
of	$10 \leq t \leq 20$		1				2		·		3			4			
Defects	$20 \leq t < 40$		1					2				3			4		
	40 ≦t < 80			1					2				3		4		10x20
	t>80			1				L		2				3		4	10x30
Evaluation Points for	Defect Size	(mm)			D ≦ 1		1	< D≦	2	2	< D ≦	4	4	< D ≦ 8	3	ξ	<d≦10< td=""></d≦10<>
Each Defect	Evaluation P	oints			1			2			4			8			16
Maximum Negligible	Plate Thickness, t(mm)			t < 2		20			20≦t<40			t		t)	> 40		
Defect Size	Negligible Size (mm)			0.4				0.6				0.015 t			5 t		

Note 1) Testing Method:X-ray

Defect Shape:Spherical

3) Grade 4, when more than three times test area of grade 3 are connected continuously.

4) Grade 4, when there is at least one defect of more than 10mm or one third plate thickness.

5) Grade 4, when there is at least one defect of either cracking, incomplete fusion,

copper inclusion or more than 2mm oxide inclusion.

欠陥等級との対応を検討した。

2 欠陥等級分類と合否判定基準における 問題点

Al 合金の溶接は、多湿環境ではブローホールの発生 が懸念される。そこで、船級協会(例えば NK, NV) との取り決めでは、ブローホールなどの第1種欠陥に対 する合否判定基準として、as welded 継手ならびに dressed 継手に対して JIS: Z 3105-1977 の欠陥等級1 級ならびに2級を合格、3級以下を不合格とすることに している。不合格と判定された箇所は、はつり取って再 度溶接しなければならない。しかしながら、補修溶接に よってかえって悪くなる場合(靱性劣化、溶接残留応力 など)もあり、慎重に判定する必要がある。JIS: Z 3105 +1977 では、Table 1 に示すように放射線透過写真から、 欠陥度を点数表示して等級分類している。第1種欠陥と しては、ブローホールの他にタングステン巻込みと小さ な酸化物の巻込みがある。鉄鋼の場合と異なり、第2種 欠陥はすべて第3種欠陥とともに4級とされている。

しかしながら、ブローホールに対する欠陥の合否判定 基準(特に as welded 継手と dressed 継手が同級であ

ること)は根拠に乏しく, as welded 継手に対しては厳し過ぎるものと判断 される^{12),13)}。この種の問題に対する 障害としては、3次元的なX線透過写 真による欠陥率 α_x (以下X線欠陥率 と称する)と2次元的に計測される破 面欠陥率 α_s とを対応づけなければな らないこと、さらに欠陥の等級分類が 不連続であることなどがある。

したがって, 欠陥の定量的な許容限

度を求め、合否判定基準が緩和できれば、合理的な品質 管理が可能となる。

3 ブローホールを有する Al 合金突合 せ継手のX線検査ならびに疲労試験

JIS の欠陥等級と実際の破壊強度との対応を把握する ため、JIS 3級ならびに4級(4級でも非常に悪いもの を 4'級と称しこれも含める)相当のブローホールを有 する Al 合金突合ぜ溶接継手試験片(as welded),およ び JIS 2級ならびに3級相当のブローホールを有する Al 合金突合せ溶接継手試験片(dressed)を製作し、X 線検査ならびに疲労試験を合わせて実施した。

3.1 供試材ならびに継手試験片

供試材は 板厚 40 mm の Al 合金 JIS: A 5083-0 材 である。供試材の化学成分ならびに機械的性質をTable 2 に示す。

継手試験片は,長さ(圧延方向)250mm,幅700mm の板2枚を突合せて横向き MIG 溶接したものから,約 5枚ずつ採取し,Fig.1 に示す形状に機械加工した。ブ ローホールは,Table 3 に示すように,最終層を除く適 当な時期にペイントを塗布して,発生させた。

Table 2Chemical composition and mechanical properties of
A 5083-0

	Chemical Composition (%)								Mechanical Propertie			
	Si	Fe [#]	Cu	Иn	Mg	Cr	Zn	Ti	00.2 (kgf/mm²)	OB (kgf/mm²)	8 (%)	
Code Value	<0.40	<0.40	< 0.10	0.40 S 1.0	4.0 5 4.9	0.05 \$ 0.25	< 0.25	< 0.15	13~20	28~36	>16	
Actual Value	0.15	0.20	0.06	0.67	4.63	0.12	0.01	0.01	18	32	21	

Note E=7200kgf/mm², t=40mm

Al 合金 A 5083-0 材突合せ継手のブローホール許容欠陥率と JIS 規格との対応について



Fig. 1 Test specimen

Table 3 Typical welding condition of butt welded joints



Table 4 Results of X-ray test and fatigue test of as welded joints

1) Speci. No. A-B(C)	Nominal Stress Range SR (kgf/mm ²)	Fatigue Life N _f (x10 ⁴ cycles)	2) (%)	3) Xs
10-1(3)	18.6	1.5	51	(%)
10-2(3)	18.7	1.5	5.9	0
10-3(4)	18.6	1.7	12.0	13
14-1(3)	9.9	14.0	7.3	0
14-2(3)	9.9	11.7	9.9	0
14-3(3)	17.8	1.1	11.0	0
14-4(3)	10.3	12.2	10.2	0
16-1(4)	9.5	17.5	15.0	0
16-2(4)	17.0	1.1	11.7	0
18-1(4)	9.5	9.4	10.7	0
18-2(4)	9.4	16.6	10.7	3
20-1(4)	10.8	8.7	70.5	14
21-1(4)	8.9	10.9	49.4	0
21-2(4)	17.7	0.7	42.4	26
21-3(4)	17.5	0.8	55.8	37
21-4(4)	9.0	7.1	66.7	0
21-5(4)	17.8	0.5	53.0	52
22-1(4)	10.2	10.6	17.4	0
22-2(4)	9.8	10.8	14.0	0
.22-3(4)	18.0	1.2	11.0	0
22-4(4)	11.1	41.5	21.0	0
22-5(4)	18.1	4.5	23.6	14
24-1(4)	19.2	4.8	21.4	0

Note 1) A: Plate No., B: Piece No., C: JIS Defect Grade 2) αx : Defect rate in X-ray photograph 3) αs : Defect-area rate in fracture surface なお、試験片採取にあたっては、溶接継手部のX線写 真から採取位置を決定した。試験片には、長さ 500 mm に対して 2~3 mm の角変形が生じていたので、凹側の 板面を機械加工し、角変形量が 1mm 程度以下になるよ うにした。また、dressing 仕上げは、 実タンク施工並 みとした。

3.2 X線検査結果

各試験片のX線欠陥率 $\alpha_X(%)$ を, Table 4 (as welded 継手) ならびに Table 5 (dressed 継手) に示す。 α_X は X 線フィルムから 計算 した 面積欠陥率であり, Fig. 2 に示すように, 試験片継手部板表面で検査視野に 最もブローホールが含まれる箇所を計測し, (1)式によ って算定した。

$$\alpha_X(\%) = 100 A_{XB} / A_X \tag{1}$$

ここで,

AxB: 検査視野内のブローホールの占める全投影断面 積

Table 5 Results of X-ray test and fatigue test of dressed joints

1) Speci. No. A-B(C)	Nominal Stress Range SR (kaf/mm ²)	Fatigue Life N f (x104cycles)	(۲) (۲)	(%)
1-1(2)	17.6	4.5	3.2	0
1-2(3)	9.7	50.0	6.1	0
1-3(4)	8.9	54.9	15.3	0
5-1(4)	18.0	5.2	10.4	0
5-2(2)	9.1	116.3	1.6	4
5-3(2)	18.6	3.1	3.3	0
5-4(2)	9.1	32.7	2.2	2
5-5(2)	17.8	3.3	2.3	0
7-1(3)	18.0	2.9	4.2	3
7-2(2)	9.8	22.8	2.5	0
11-1(3)	17.8	1.8	7.1	0
11-2(3)	8.1	54.0	10.1	0
11-3(3)	18.6	5.9	10.7	17
13-1(3)	11.4	25.7	6.9	0
13-2(4)	9.5	34.1	12.7	0
13-3(3)	11.4	43.7	4.3	0
19-1(3)	18.4	3.8	5.4	0

Note 1) A: Plate No., B: Piece No., C: JIS Defect Grade 2) QX : Defect rate in X-ray photograph

- 3) α_s : Defect-area rate in fracture surface
- 4) Dressed condition : $4\!\sim\!\!10$ mm toe radius grinding treatment



Fig. 2 Test area in X-ray photograph



Fig. 3 Defect rate in X-ray photograph versus JIS defect grade

 A_X :検査視野面積(この場合 10 mm×20 mm) なお, Table 4 および Table 5 に示した試験片符号 A-B(C)のAは板番号を, Bは切出し番号を, CはX 線写真による JIS の欠陥等級をそれぞれ表わす。

Fig.3 に本試験片の X線欠陥率 α_x と JIS 欠陥等級 との関係を示す。JIS 欠陥等級は点数表示であるにもか かわらず、JIS の各欠陥等級に対応する X線欠陥率は互 いに重複することなく、かつ X線欠陥率の全領域を包含 している。その意味で両者の対応は良い。なお、Fig.3 中の括弧内の数字は、JIS の各欠陥等級に対応する X線 欠陥率 α_x の上限ならびに下限を表わす。

3.3 疲労試験結果

3.3.1 試験方法

疲労試験は、電気油圧式 100 ton 立型疲労試験機を用 いて、試験片の上下端を約 100mm 油圧チャックで直接 つかんで実施した。試験条件は、室温大気中で軸力片振 り引張り荷重制御(応力比:R=0)とした。また、応力 条件は、母材平行部の最大公称応力で 7.5 kgf/mm² な らびに 15kgf/mm²とし、最小公称応力でいずれも 0kgf/ mm² とした。ただし、試験片 7-2(2)の場合の最大公 称応力は、8kgf/mm²とした。また、荷重波形は正弦波 とし、繰返し速度は 6~10 Hz とした。

3.3.2 試験結果

as welded 継手ならびに dressed 継手の疲労試験結 果をそれぞれ Table 4 ならびに Table 5 に示す。なお、 試験片のわずかな角変形の影響を考慮して、R=0相当 の母材平行部の公称応力範囲に換算し直した。

破面欠陥率 α_s は,破面から計算した面積欠陥率である。通常は全破断面積に対する欠陥の占める割合で表示



Fig. 4 Test area in fracture surface

することが多い。しかし、X線欠陥率は欠陥が集中して いる箇所に対する局部的な表示であることから、ここで は Fig.4に示すように、破断面内において最もブローホ ールが含まれる幅 10 mm の領域での計算値とし、(2) 式で算定した。すなわち、局部的な破面欠陥率を表わ す。

$$\alpha_S(\%) = 100 A_{SB}/A_S \tag{2}$$

ここで,

A_{SB}:破断面検査視野内のブローホールの占める断面 積

As:破断面中の検査視野面積(この場合 10 mm×板 厚)

応力範囲 S_R と破断寿命 N_f の関係を Fig.5 に示 す。図中の曲線 ④および ①は、それぞれ $\alpha_s=0$ に対 応するものである。すなわち、as welded 継手 および dressed 継手の 50% 破壊確率の応力範囲と破断寿命と の関係を示したものである。また 代表的な as welded 継手試験片ならびに dressed 継手試験片の 破断面状況 を Photo.1 に示す。

破断面にブローホールを含 ま ない 試験片の破断寿命



Fig. 5 Stress range versus fatigue life $(S_R$ versus N_f)

Al 合金 A 5083-0 材突合せ継手のブローホール許容欠陥率と JIS 規格との対応について



Photo.1 Fracture appearance of butt welded joints with blow holes

は、それを含む試験片の破断寿命よりも常に大きくなる とは限らないようである。また、破断面にブローホール を含まない験試片でも Table 4 ならびに Table 5 に示 す程度のブローホールがX線検査で検知されており、こ のことからブローホールの含有率が小さいと破断寿命減 少にはあまり効かないことがわかる。したがって、逆に 余盛形状その他の影響を含めて材料強度のばらつきが非 常に大きいといえる。もちろんブローホールの含有率な らびにその寸法が非常に大きくなると、破断寿命は明瞭 に低下する。特に JIS 欠陥等級4以下のブローホールを 有する as welded 継手は、破断寿命の低下が著しい。 破断面にブローホールを含む試験片の破断様式は、



Note: A-B(C) indicates specimen number, A:Plate No., B:Piece No., C:JIS Defect Grade Fig.6 に示すようにさまざまである。ま た,Photo.1 に示すように,破断面にプ ローホールを含まずに溶接止端部から破 断した試験片でも,継手試験片側面から みるとブローホールから亀裂が成長して いるものもある。

471

4考察

4.1 X線欠陥率と局部的破面欠陥率の関係

X線欠陥率 α_x と局部的破面欠陥率 α_s との関係を Fig.7 に示す。 同図に は,板厚 10~50 mm の鉄鋼突合せ継手 結果 (ブローホール)^{5),15)} についても参 考のためにプロットした。ブローホール は,第2種欠陥に比べて両者の対応が悪 いといわれているが,本試験片によれば, 破面全面にブローホールが一様分布して いる試験片の方が α_x と α_s との対応 がよい。本試験結果を含めて全データの ほぼ 80% が 0.5 $\leq \alpha_s / \alpha_x \leq 2$ の範囲内 に入っている。なお,本試験結果はほぼ $\alpha_s / \alpha_x = 1$ の線に沿って分布しているの に対し,鉄鋼の場合は α_x の小さい範囲

で若干傾向を異にしている。これは、欠陥率の算定法の 差異によるものと思われる。

4.2 母材ならびに各種仕上げの 突合せ継手の 疲労強 度比較

Fig.8 に、本試験結果(①および D)を含めて、 Al



Fig. 7 Defect rate in X-ray photograph versus defect-area rate in fracture surface (α_X versus α_S)

Fig. 6 Fracture path





合金 A 5083-0 材の母材ならびに各種仕上げ突合せ溶接 縦手の応力範囲と破断寿命(破壊確率 P=50%)との関 係を示す¹⁶⁾。

A	as welded (H)	$S_R = 256. \ 1 N_f^{-0.278}$	(3)
D	dressed (H)	$S_R = 284.6 N_f^{-0.262}$	(4)
1	母材16)	$S_R = 107.6 N_f^{-0.144}$	(5)
2	flushed ¹⁶⁾	$S_R = 100. \ 3N_f^{-0.154}$	(6)
.3	dressed ¹⁶⁾	$S_R = 150. \ 3N_f^{-0.208}$	(7)
45	as welded (V, OF	H) ¹⁶⁾	
		$S_R = 184. \ 1 N_f^{-0.234}$	(8)
(6)	as welded (H) ¹⁶⁾	$S_R = 209.4 N_f^{-0.280}$	(9)

ここで,

dressed 条件:溶接止端部半径を 4~10mm としたグ ラインダー仕上げ

flushed 条件:母材平行表層部を含めた機械的平滑仕 上げによる完全余盛削除(角変形なし)

本試験結果の as welded 継手 (Fig.8 中の④) は, 当社で過去に実施した横向き継手 (Fig.8 中の④) に比 べると若干大きくなっている。また, dressed 継手(Fig. 8 中の ①) は ③ とあまり差はないが, 勾配が多少異な っている。as welded の縦向き溶接継手 ④ または上向 き溶接継手 ⑤ は, 余盛形状が良好なために dressed 継 手と疲労強度において大差がない。したがって, 横向き 継手でも溶接金属の垂れ下がりを少なくして余盛形状を よくすれば, 疲労強度の向上が望めると考えられる。

4.3 許容欠陥率と JIS 欠陥等級との対応

許容欠陥率の決め方は,通常,無欠陥の as welded 継手と同等の疲労強度を有する欠陥溶接継手の $\alpha_s \epsilon$, その溶接継手に対する許容限界欠陥率とする方法がとら れている。すなわち,余盛による疲労強度低下率よりも, 欠陥による疲労強度低下率の方が小さい場合を許容して いる。

しかし、この方法では、as welded 継手に対しては許 容欠陥率が定められない。そこでまず、as welded 継手 ならびに dressed 継手の疲労強度が、局部的破面欠陥 率の増大に伴ってどのように減少するのかを検討するこ とにした。高サイクル域での S-N 線図の勾配は、無欠 陥継手と欠陥継手では異なること、また何れの継手でも 疲労強度のばらつきは大きいこと、さらに非破壊検査に おける α_x と α_s との対応が完全ではないが、ほぼ $\alpha_s/\alpha_x \leq 1$ であることなどを考慮して、1) 破断寿命: $N_f=2\times10^6$ cycles、2) 破壊確率: P=50%、3) α_s/α_x =1 として評価することにした。

ところで、日本造船研究協会 SR 32 部会では、 $N_f = 2 \times 10^6$ cycles の flushed 継手の疲労強度係数K の評価 式として、(10) 式を提案している³⁾。誤差は $\pm 15\%$ で ある (Fig. 9 参照)。

$$K = 90 - 40 \log \alpha_S \tag{10}$$

ここで,





Fig. 9 Fatigue strength factor versus defectarea rate in fracture surface (K versus α_S)

(10) 式は鉄鋼材料に対して求められたものである が^{2),3),7)}, Fig. 9 に示すように, Al 材料にも十分適用で きるものである¹³⁾。

そこで、本試験片と同種材料の flushed 継手 (Fig.8 中の ② ならびに (6) 式参照) に対する as welded 継 手ならびに dressed 継手 (Fig.8 中の ④ ならびに ①) の、 $N_f=2\times10^6$ cycles における相対疲労強度(以下、 この比を相対疲労強度係数Kと称する)を下記の方法で 求めた。

まず、溶接継手Xの疲労強度は、 N_f の関数と α_s の 関数の積として表示できると仮定した。

 $S_{R,X}(N_f, \alpha_S) = S_{R,X}(N_f, 0) \cdot f_X(\alpha_S)$ (11)

ここで、 $f_X(\alpha_S)$ は α_S の関数で、材料定数である。 すなわち、 α_S の影響は N_f に依存しないと仮定した。

さらに, 無欠陥 flushed 継手の $N=N_f$ での 疲労強度 $S_{R,F}(N_f,0)$ で(11)式の両辺を除すと, (12)式を得る。

 $S_{R,X}(N_f, \alpha_S)/S_{R,F}(N_f, 0)$

 $= f_X(\alpha_S) \cdot S_{R,X}(N_f, 0) / S_{R,F}(N_f, 0)$ (12) (12) 式の $f_X(\alpha_S)$ が N_f に依存しないことから, $N_f = 2 \times 10^6$ cycles における溶接継手 X の相対疲労強度

係数 K は (13) 式のように推定できる。 $K = S_{R,X}(2 \times 10^6, \alpha_S) / S_{R,F}(2 \times 10^6, 0)$

= $f_X(\alpha_S) \cdot S_{R,X}(2 \times 10^6, 0) / S_{R,F}(2 \times 10^6, 0)$ (13) ただし, $f_X(\alpha_S)$ はできるだけ N_f が 2×10^6 cycles に 近いデータを用いるのが望ましい。

このようにして求めた $N_f=2\times10^6$ cycles における各 種仕上げの突合せ溶接継手の相対疲労強度係数Kと破面 欠陥率 α_s との関係を Fig.9 に示す。なお、破面欠陥率 α_s は局部的破面欠陥率である。 Fig.9 からわかるよう に flushed 継手の場合には、破面欠陥率の増大に伴い急 激に疲労強度は低下する。一方、as welded 継手の場合 には、無欠陥でも余盛による応力集中のため疲労強度は 低下するが、局部的破面欠陥率が増大しても急激な疲労 強度の低下は生じない。また、dressed 継手は両者の中 間的傾向を示している。この理由は、flushed などにす れば構造的応力集中は緩和されるが、欠陥部が板表面に 生じる可能性があり、内部欠陥よりも厳しくなるためと 思われる。一方、as welded 継手の場合はすべて内部欠 陥のため、その効きは相対的に小さいものと思われる。

一般には、as welded 継手よりも dressed 継手や flushed 継手の方が疲労強度上好ましいと考えられてい るが、それは破面欠陥率が小さい場合のことであり、破 面欠陥率が大きくなれば、逆の傾向が現われることがわ かった。

Fig.9 に示すように、データ不足のために十分な定量

的考察は難しい。しかしながら、 $\alpha_s=0$ のデータは平均 値を1点で表示し、 $\alpha_s \neq 0$ のデータは一つ一つの実験点 を示していることから、 $\alpha_s=0$ のデータに重みをもたせ て平均的なカーブを引いた。無欠陥継手の疲労強度以下 となる限界の破面欠陥率は、データ不足のため確定が難 しい。dressed 継手の場合は、10% 程度と推定される。 また、as welded 継手の場合には、20% 程度と考えら れる。したがって、as welded 継手の許容できる局部的 破面欠陥率は、約 20% 程度であると考えてよいであろ う。

なお,ここでの破面欠陥率は,全破断面中の欠陥の占 める割合ではなく,(2)式で定義したように欠陥が集中 している部分での欠陥の占める割合である。したがっ て,全破断面に対する破面欠陥率よりも大きめに推定さ れている。

また、 α_x と α_s との関係 (Fig. 7) ならびに α_x と JIS 欠陥等級との関係 (Fig. 3) を用いて、これら許容破 面欠陥率に対応する JIS 欠陥等級を求めると、Fig. 9 中 に示すようになる。すなわち、 $\alpha_s/\alpha_x=1$ とすると、as welded 継手の許容破面欠陥率は JIS 欠陥等級の 4 級に 相当することがわかる。したがって、as welded 継手に 対しては、少なくとも JIS 欠陥等級の 3 級程度は許容で きると考えられる。

なお、応力分布を考慮に入れて許容欠陥を決定する必要がある場合には、疲労被害度を媒介にした矢島、川野ら¹⁷⁾の方法が良いと思われるが、ここではふれなかった。

5まとめ

LNG タンク用 Al 合金 (A 5083-0) の ブローホール を有する as welded ならびに dressed の突合せ溶接継 手試験片を製作し,X線検査ならびに軸力片振り引張り 疲労試験を実施し,下記の知見が得られた。

1) JIS: Z 3105-1977 の各欠陥等級に対応する X 線 欠陥率は互いに重復することなく,かつX線欠陥率の全 領域を包含する。その意味で両者の対応がよい。

2) X線欠陥率 α_x と局部的破面欠陥率 α_s とは, 比較的よい対応にあることが明らかとなった。全データ の約 80% が $0.5 \le \alpha_s / \alpha_x \le 2$ の範囲に包含されている。 特に, ブローホールが破断面上に一様に分布していると きは, α_x と α_s の対応がさらによい。

3) $N=2\times10^6$ cycles における 各種仕上げの突合せ 溶接継手の,無欠陥 flushed 継手の疲労強度に対する相 対疲労強度係数Kと局部的破面欠陥率 α_s の関係を求め たところ,ブローホールに対する感受性は, flushed 継 手, dressed 継手, as welded 継手になるにつれ鈍くな ることが明らかとなった。

4) as welded 継手の許容できる局部的破面欠陥率

は、約 20% 程度となることがわかった。また、これに 対応する JIS 欠陥等級は 4 級である。したがって、as welded 継手に対しては、少なくとも JIS 欠陥等級の 3 級程度は許容できると考えられる。なお、さらに詳細評 価を行うためには、今後実験データの補充が必要であ る。

終りに,本研究遂行に当り,種々御指導いただいた東 京大学 飯田國廣教授に厚く御礼申し上げます。また, 種々御支援いただいた三菱重工業(株)長崎造船所造船総 括部主管 永元隆一博士に深く謝意を表します。

参考文献

- 1) 永元隆一, 黒川正文, 大黒 貴, 岩本啓一:LNGC 球形タンクの非破壊検査について, 西部造船会々 報, 第64号掲載予定(昭和57年秋季講演会にて 発表の予定).
- Burdekin, F. M., Harrison, J. D. and Young, J.G.: The effect of weld defects with special reference to BWRA research, IIW Doc. No. XIII-506-68.
- 服部一郎:構造物の溶接部に生じる欠陥とその評価,溶接学会誌, Vol.34, No.7 (1965), pp.641 ~653.
- 石井勇五郎,他:放射線試験による溶接部の強度 を考慮した等級分類(低炭素鋼)NDIS 1501-67, 非破壞検査, Vol.16, No.4 (1967), pp. 170~177.
- 5) Ishii, Y., Kihara, H. and Tada, Y.: On the Relation between the Nondestructive Testing Information of Steel Welds and their Mechanical Strength, 非破壞検査, Vol. 16, No. 8 (1967), pp. 319~343.
- 6) 石井勇五郎:鋼材溶接部の非破壊検査像と機械的

強度の関係, 高圧力, Vol.6, No.3 (1968), pp. 1304~1310.

- 7) 石井勇五郎, 飯田國廣: 圧力容器の溶接欠陥と強 度の問題, 高圧ガス, Vol.7, No.1 (1970), pp. 511~525.
- Harrison, J. D.: The Basis for a Proposed Acceptance Standard for Weld Defects Part 1: Porosity, IIW Doc. No. XIII-624-71.
- 石井勇五郎:非破壊検査上からの破壊に対する対策,高圧力, Vol.9, No.5 (1971), pp.2494~2508.
- 10) 飯田國廣:溶接欠陥が疲労強度に及ぼす影響,非 破壊検査, Vol.22, No.8 (1973), pp. 457~466.
- 石井勇五郎:破壊試験結果からみた溶接部の欠陥 度算定範囲,非破壊検査, Vol.22, No.8 (1973), pp. 479~490.
- 12) Lawrence, F. V. Jr, Munse, W. H. and Burk, J. D.: Effects of Porosity on the Fatigue Properties of 5033 Aluminum Alloy Weldments, WRC Bulletin No. 206 (1975. 6).
- 13) 佐藤四郎, 松本二郎, 大越 登:5083合金の突合 せ溶接継手のブローホールが疲れ強さに及ぼす影 響, 軽金属 (1976), pp. 398~405.
- 14) JIS:Z 3105-1977:アルミニウム溶接部の放射線 透過試験方法及び透過写真の等級分類方法,日本 工業標準調査会審議,日本規格協会発行.
- 15) 石井勇五郎, 富士 岳: Conformity of Internal Weld Defects between Non-destructive Testing and Visual Inspection, IIW Doc. No. V-411-69.
- 社内資料:アルミニウム合金 A 5083-0 材の母材 および溶接継手部の疲労 亀裂発生特性(公表予 定).
- 17) 矢島 浩,川野 始,他:溶接欠陥許容値決定法 に関する一考察,日本造船学会論文集, Vol. 141 (1977.6).